

半々なのですが、その両方を通じて社会貢献ができているのではないかと最近感じます。自然流が一番いいと思います。そういう意味では、交換留学生の件に関して、2年前に関山さんが稲生RCの方から頼まれ、我が校で受け入れてくれないかとの話がありました。校長と話し合ったところ、子供達もしっかりしてきて、また交流を積極的にやっという機運も生まれてきたので受け入れることにしました。生徒達にとっても友好な交流が生まれ、大成功でした。次に多摩RCの吉澤さんから同じように頼まれ、フランスからの子を受け入れました。彼も真面目で本当にいい形で受け入れ、送り出すことができました。さらにこの話をきいた高津RCからまた話がきたのですが、こういう話が広がり、近場につながっていくのはいい流れだと思います。本当の意味のロータリー活動と職業奉仕ができつつあると思います。受け入れにあたっては、我々学園の方もどこに出しても恥ずかしくない学校運営をしなくてはいけないし、身を引き締めてかかるということで学園にとってもいいことです。

私は半分が学校、半分が警察という形で仕事をしていますが、相互についても深いつながりができています。多くの皆さんが地域の幸せのために地元の人として本当に尽くしていらっしゃるが、そうした方々と直に触れ合うことによって公安委員の仕事が自信をもってできます。これに連動する話ですが、公安委員長は保護司の選考委員も兼ねております。刑務所から出てきた人間に対しては保護司の方をお願いしていますが、大変な仕事で、定員はあるものの充足していないという問題があります。保護司の人とのつきあいや警察庁の方々と雑談的に話していく中で、これは大変だということで、今新たな動きが始まっています。

最後に30周年の準備の活動についてですが、国際奉仕という中で、この夏我が校がリニューアルした際に出た机と椅子1,000セットを必要としているところにお分けするというので調整しています。一番濃厚なのはモンゴルのようなので、さらにもう一つ動

きがあります。昔はブラジルに移民していましたが、今はブラジルの日本人が家族で日本に来るのだそうです。日本の学校に行ってもなじめないということで、NPO法人を作られている方が埼玉県にブラジル学校を造りました。各種学校に近い形で教えているそうですが、机、椅子がないので寄付いただければありがたいという話があり、学園として余ったものを送りたいと思います。これはロータリーとして補助ができるのではないかと思います。そのRCと当クラブが連携しあって、活動の一環としての流れを作っていきたいと思います。また中身が詰まり次第お話ししたいと思います。ありがとうございました。

